環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１５４号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

第 28 回エコメッセ 2023in ちば開催しました

エコメッセちば実行委員長　桑波田 和子

日時及び場所：2023 年 10 月 14 日（土）～　　オンライン開催（エコメッセHP）
10 月 15 日（日）10 時～16 時　会場開催（幕張メッセ国際会議場２階）
テーマ　　：PEACE　身近な暮らしからもう一歩！

「エコメッセちば」は持続可能な社会を目指して、各立場の役割を連携、協働する一つの場として位置づけされています。今年は 28 回目の開催となり、これまでのエコメッセご支援、ご協力への感謝と長年継続できた実行委員への感謝が、まず頭に浮かびました。

15 日はあいにくの雨でしたが、約 2300 人の方が来場され、出展ブースでの体験や説明、意見のやり取りなど、和やかな風景があちこちで見られました。

テーマの PEACE は、身近な暮らしを見つめ直すことが多様な人・文化を尊重して地球平和へと繋がることを願い、選定しました。

会場出展は 65 団体。屋外では燃料電池自動車展示・試乗会も行いました。「親子で SDGs を体験しよう」は、実行委員の学生団体おりがみが、県内の里山などでの実体験を通して、クイズなどで親子に SDGs を考える場を提供しました。

「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」（主催：千葉県）、「家族で楽しむ里山遊び 10」（主催：環パちば）も同時開催しました。

オンライン出展団体の紹介及び団体インタビューは、「エコメッセ ちば 2024」開催前日まで配信いたします。今後とも「エコメッセちば」をよろしくお願い申し上げます。

団体の SDGs 取り組みインタビュー

学生団体おりがみ　土谷 悠太

学生団体おりがみは、環境活動を取り組む団体・企業をインタビューし、動画にまとめました。エコメッセ HP からぜひご覧になってください。

【株式会社 TOA シブル】

株式会社 TOA シブルさんは油性廃棄物のリサイクルと処理を行っている企業です。油性廃棄物を処理する技術と環境への負荷を減らすリサイクルへの取り組みを学ぶことができました。

その他にも、会社内には子供食堂応援自販機、駐車場にはミツバチの巣箱、ハーブ畑やひまわり畑、ビオトープなどの取り組みがあり、環境問題だけでなく広く SDGs に取り組まれていました。

産業廃棄物業界は世間から『きつい、汚い、臭い』いわゆる 3K という印象がありますが、今回の取材で素敵な取り組みを見ることができ、業界のイメージが変わりました！

【コープみらい】

サステナビリティ推進部の方にインタビューを行い、エコ活や生活協同組合員の活動など、コープみらいの SDGs に関する取り組みを知ることができました。

さらに、コープみらい南浦和支店で実際の取り組みを取材してきました。リサイクル資源回収ボックスやフードドライブなどの取り組み、ペットボトルを買い物かごにする取り組みには驚きました。利用者がリサイクルしたペットボトルが生まれ変わり、使うことができるのは素敵ですね。

他にもコープみらいが行うハッピーミルクプロジェクトなどの４つのプロジェクトを店舗で取材することができました。実際に取材することで SDGs への取り組みがよくわかり、私たちの選択が SDGs に繋がることを改めて実感しました。

【千葉県主催】若者が主役の環境保全活動応援事業
「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」を開催しました

だより 152 号からお知らせしてきた本事業におけるアイデアコンテストが開催されました。

日時：令和５年１０月１５日（日）１２時３０分～１４時３０分
会場：幕張メッセ国際会議場２階２０１室（エコメッセ 2023in ちば会場内）
結果：第１位：蘇れ！耕作放棄地　～日本茜に託す私たちの想い～
（成田日本茜復活チーム(県立成田西陵高校)）
第２位：里山活用コミュニティ「グリーンベース」　（学生団体グリーンベース）
第３位：地域の特色を活かした自然体験型学習プログラムの画策　（千葉大ＮＥＳＯ）

応募企画は９つ。このうち書面による一次審査を通過した５つが、エコメッセ会場内で二次審査となるプレゼンテーションに臨みました。二次審査は、審査員による審査とエコメッセ来場者による投票を合計して行われました。

プレゼンテーションでは、書面ではわからなかった若者たちの想いや、企画の奥深さを感じました。質疑応答の場では、これから実際に活動していく若者たちに対し、審査員から温かく的確に、気づきに繋がる指摘・質問が向けられたほか、来場者からもコメントがありました。表彰式では、若者応援団体を含むブース出展者の多くがステージに注目し、拍手を送ってくれました。

自らの想いをこのコンテストにのせた若者たちや、様々な立場・形でその若者を応援する大人たちと同じ時間を共有できたことは、事業の立ち上げから携わってきた一人として、感慨深いものがありました。

さて、皆様から多くのお力添えをいただき、大きな山を越えることができましたが、この事業では「環境」というキーワードを入口に、若者たちの活動による様々な効果をねらっています。その効果が波及するよう、当会では引き続き若者たちを応援していきます。また、この「だより」をご覧になった皆様からの応援も届けていきますので、引き続きご協力をお願いいたします。

（文責：山内　可奈子）

＊当会は本事業の受託者として、コンテストに関する運営補助及びその後の環境保全活動の伴走支援（令和５年度末まで）を担当しています。

受賞しました！　是非グリーンベースに遊びに来てください。

学生団体グリーンベース　島田 琉太郎

私たち学生団体グリーンベースでは、「若者が主役の里山活用コミュニティ・グリーンベース」を提案しました。

グリーンベースとは、「里山 １ つを学生のアイデアを取り入れた遊び場にリメイクしたい」というアイデアから生まれました。

グリーンベースの舞台は、千葉県市原市にある「AMO の森」です。AMO の森は、「おとずれ山の会」さんが市原市から管理を委託されている土地です。しかし、里山保全従事者の高齢化による担い手不足で管理が行き届いていないという課題があったため、学生の手で里山保全活動を行っていきます。

グリーンベースの特徴は２点あります。

１点目は、「循環する里山保全活動」である点です。若者が環境保全活動に取り組み、企画し、さらに広がっていくだけなく、次年度以降の活動継続も視野に入れた活動資金を得る仕組みを整えています。

２点目は、「里山保全活動を入口としたコミュニティの形成」です。このコミュニティには、①里山保全活動を通して学生生活を彩る仲間を作る、②自分たちが思い描く里山保全活動を企画する、③里山保全活動の他にも様々な環境ボランティアに出会うという３つの機能が備わっています。

今回頂いた賞金を元に、「若者が環境保全活動に関わるきっかけ」を作り出していくので、応援よろしくお願いします。

今回は本当にありがとうございました。

第 28 回エコメッセ 2023in ちば
家族で楽しむ里山遊び 10 を見守って

令和 5 年 10 月 15 日（日）10:00～16:00 に幕張メッセ国際会議場 2 階 202 号室で小学生とその家族を対象に、（特非）環境パートナーシップちばの主催で「家族で楽しむ里山遊び 10」が開催されました。

催しは、木や竹を材料にした工作キット(10 種類）を組み立てて、自分で作ったおもちゃで里山遊びをするという内容で、（出席者の記録は取っていませんでしたが、大凡 200 人以上だったでしょうか？）多くの子供さんが活発に取り組まれ、数種類の工作に挑戦された子供さんもいました。

子供さんが興味を引かれた工作キットは、素材が竹で構造が簡単で作成しやすいもので、完成した作品でその場で遊んでいた３つを紹介します。

★４番目の竹ぽっくり　（竹製ぽっくり）

竹材は、口径 7～8cm 高さ 10cm の節を、底、上にひもを通し、手で持って靴の下に履いて歩くことが出来ました。

★５番目のカラフルぶんぶんゴマ

竹材は、長さ 15cm 幅 3cm、竹の中央に２つ穴を開け、ひもを通して、竹に好みのテープを巻きつけ回すときれいな円模様が浮かびますが、慣れないと上手く回せませんでした。

★９番目ウグイス笛

竹材は、笛本体口径 1cm 長さ 10cm に 5mm の丸穴を開け、吹き口の口径 5mm 長さ 5cm の先を斜めに切る。きれいなウグイスの鳴声を出すには、本体の穴と吹き口の接着位置の調整がむずかしかったが、上手く鳴声が出た時は安らいでいました。

感想は、子供達の動きを感激して見守る親は大変喜んでいましたが、奇想天外な動きをする子供がいますので、注意が必要ですね。

（文責：芦川 義勝）

クヌギのだるま落とし

スタッフさんに手伝ってもらいながら、完成！

若者と考える印旛沼の未来

令和５年度印旛沼環境基金助成事業として、IVUSA（国際ボランティア学生協会）の大学生の参加を得て、10 月 1 日に標記イベントを実施しました。

当日は時間刻みの盛りだくさんな内容で、前半は、印旛沼船上見学とサンセットヒルズからの印旛沼展望と昼食、佐倉ふるさと広場までのミニハイク、を行い、印旛沼をいろいろな角度から体感してもらいました。

今まで夏のクリーン大作戦に参加しても印旛沼本体は初めて、という学生さんが多く、短時間でしたが船で印旛沼を感じることができたのは、大好評でした。

後半は佐倉コミュニティセンターで、ワークショップ「若者と考える印旛沼の未来」です。ここからは、おとな（市民）７名が加わり、学生 11 名と市民 10 名が４つのグループに分かれて、「印旛沼でこんなことをやりたい」「一里塚にこんなものがあったらいいな」という提案やアイデアを出し合いました。

どのグループでもいろいろな楽しい提案が飛び交い、最後にグループごとに発表して共有しました。

各グループからは、印旛沼一周サイクリング大会をやろう／オニビシの実や流域の特産品でお菓子などを開発し、一里塚で売ろう／SNS で「印旛沼映え」「印旛沼推し」を発信しよう／沼のほとりで青空ヨガ／流域の耕作放棄地で農業体験できる施設を。　などの魅力的なアイデアがたくさん飛び出しました。

これらの提案を一つでも実現させたいね、と話しながら閉会となりました。

学生さんの事後アンケートでは、印旛沼見学、ワークショップともに、すごく楽しかった、また参加したい、地域の人と話せてよかった、等のうれしい声が寄せられました。

IVUSA のみなさん、どうもありがとう。
これからもよろしく！

（文責：小倉 久子）

浦安で初めてのＥボート千葉大会を開催しました

第 10 回Ｅボート千葉大会浦安実行委員会　横山 清美

2023 年１０月８日（日）浦安の境川のテラスを特設会場にして、浦安で初めてＥボート千葉大会を開催しました。浦安のまちの堀江と猫実の境にある川だから境川という、浦安の背骨の川に当たります。浦安水辺の会やカヌー協会が、陸から水上から長年活用している愛着のある川です。

そんな川で「Ｅボート大会をやりたい」という浦安水辺の会会員の呼びかけが６月にあってから、気づいたら夏には、第 10 回Ｅボート千葉大会浦安実行委員会を立ち上げることになっていました。

2011 年第９回印旛沼流域環境・体験フェアのプログラムの一つとしてＥボート千葉大会は始まり、第１回から 2014 年蘇我に会場が移ってからも、ずっと浦安水辺の会は参加していました。

2019 年の第９回が雨天で中止になってから４年間コロナ規制で開催することができずにいたので、５年ぶりの 2023 年を開催したいと思ったのは、当然の成り行きだったのかとも思っています。

蘇我からのチームが４チーム、浦安での新チームが７チーム、そのうち３チームは市役所の職員さんチームと、嬉しい浦安市民の参加度でした。ちょうど浦安市での「境川かわまちづくり」での良い社会実験なると考えていましたので、職員さんの協力度には大変感謝でした。

蘇我会場では、なかなかできなかった地域との交流も目標の一つにして、カヌーとＥボートの体験乗船会を同時に開催しましたので、参加者は総勢 162 人となりました。

チャレンジの第 10 回Ｅボート千葉大会が終了して、次年度の開催 10 月 27 日（エコメッセちばの翌週！）に実行委員が燃えているところです。来年は、ぜひ！KANPA チームもご参加ください。

どちらもゆずらず、ゴールイン！

船橋市・市民公開講座

地球温暖化と SDGs を考えよう！　～わたしたちが出来ること～

アースドクターふなばし代表　阿部 利美

私たち“アースドクターふなばし（以下 edf）”は、2007 年７月創立以来、“めざすはストップ温暖化”をスローガンに、地球温暖化問題を一人でも多くの市民の方に知って戴くため、一貫して出前講座・出前授業やフェア・イベントへの出展を行って来ました。またその年の重要テーマにつき、市民公開講座を企画・開催し、市民の皆様と共に考え、行動することを目指しています。

コロナ禍の３年間はオンラインでの市民公開講座でしたが、今年は実に４年ぶりのリアル（対面）での講座を実施することが出来ました。

日時：2023 年 11 月 11 日（土）
　　13:30～16:00　（パネル展示 13:00～）
場所：船橋市中央公民館講堂（パネル展示 ロビー）
対象者：中学生～一般成人（62 名参加）
主催：アースドクターふなばし≪edf≫
後援：船橋市、船橋市教育委員会

≪基調講演≫
　「地球温暖化と SDGs を考えよう！」
講師：国立環境研究所・社会システム領域主幹研究員　金森 有子氏

≪パネルディスカッション≫
　「わたしたちが出来ること」
モデレーター：金森有子氏
パネリスト：NPO 環パちば：桑波田和子氏／船橋市環境政策課：中西 学氏／生活協同組合コープみらい：長嶋行子氏／船橋市立船橋中学校：井上華恵氏／edf：岡 広光氏

基調講演では金森講師から、脱炭素社会の実現のためにどう取り組むべきか、今こそあらゆる分野の人が、人々の行動変容を導けるような仕掛け、工夫をしていくことが重要、と言う力強いお話を聞くことが出来ました。またパネルディスカッションでは、パネリストの皆様からそれぞれの創意・工夫・苦労が聞け、会場との意見交換も出来ました。

今日の市民公開講座を契機に、それぞれの立場であらためて考え、2030 年・2050 年の目標に向け、更なる行動に結び付いていって欲しいと思います。

生物多様性　わたしたちにできること

ESD-J　重　政子

前回は“生物多様性って何だろう“として、生物多様性保全がなぜ必要か、その課題と世界的な取り組み、日本の戦略等を大まかに書きましたが、今回は「生物多様性国家戦略」の枠組みで、「2030 生物多様性枠組み実現日本会議」（Ｊ－ＧＢＦ）から提案された、ネイチャーポジティブ・行動計画などについて、私たちは生活のなかでどのように関わればよいのか少し考えてみたいと思います。

ネイチャーポジティブ（自然を増やす、よくする）という当たり前すぎる概念が世界目標として提案されたのは、「人間にとって自然環境がなくては生きていけないこと」をお互いに認めたからこそだと思います。

これまでの生物多様性保全に加えて、気候変動や資源環境等の様々な分野と連携し取り組むことでしか、自然資本を守り活かすことができないということにようやく気付いたのです。

例えば、絶滅危惧種・準絶滅危惧種の８割は、社会経済システム（食糧・土地・海洋の利用、インフラ・建設、エネルギー・採掘など）が原因であり、自然の喪失を食い止めるためには抜本的な改革が必要なのです。

生物多様性と自然資本

自然資本（生物および取り巻く基盤（大気、水、土など））と生物多様性（生物が多様であること）は相互に深く関連し合っており、豊かな生物多様性なくして健全な自然資本を維持することはできません。こうした生物多様性と自然資本から生み出されるさまざまな恩恵（生態系サービス）は社会や経済の基盤であり、私たちの暮らしはこの生態系サービスに大きく依存しています。

ネイチャーポジティブのための行動

私たちの住む千葉県は首都圏内に位置し、高山こそありませんが、三方を海に囲まれ、里・海・山・川沼 等を含めた生物多様性保全活動が多様に行える環境にあります。このような地域でこれまでも、里山に蛍を増やそう、東京湾に江戸前の魚貝類を増やそう、ゴミを減らそう、沼や水路から外来生物を駆除しようなど、その成果が具体的に目に見える活動が継続して展開されています。

しかしながら現実には、自然は劣化し、劣化を引き起こす要因は過去 50 年間に加速しており、このままでは、生物多様性保全と持続可能な利用に関する国際的な目標は達成できません。目標達成に向けては間接的要因にも働きかける横断的な「社会変革」が必要とされ、ネイチャーポジティブのためのアクションプラン（行動計画）が提案されています。

私ができるファーストアクション

生物多様性保全に携わる私たちの個人の行動変容から意識が変わることこそ、社会変革の第一のポイントと思われます。行動変容のきっかけにつながる一つのヒントには環境省の『MY 行動宣言』があります。この行動宣言を個人の生活活動の実践ヒントとして、展開していきます。生物多様性保全のためのアクションは、決して大上段に振りかざすものではありません。この５つの行動のように、日々の生活の中のほんの小さなことの積み重ねが、ネイチャーポジティブにつながるのです。

そして更には、夫々が属している主体、団体としての枠組みには「J-GBF ネイチャーポジティブ宣言」「行動計画」などがあります。これらを参考にして、夫々の特性を活かした項目をつくり、相互に情報共有すれば、これまでの私たちの個々の活動がグレイドアップされ、その成果につながるのではないかと期待しています。

MY 行動宣言

- **食べよう**：地元で採れたものを食べ、旬のものを味わいます。
- **触れよう**：自然の中へ出かけ自然の生き物にふれます。
- **伝えよう**：自然の美しさや、季節の移ろいを感じていろいろな方法で伝えます。
- **守ろう**：人や文化とのつながりを守るため色々な活動に参加します。
- **えらぼう**：エコラベルなどのついた商品を選んで使います。

（環境省 HP より）

生物多様性のことなど

高野 史郎

ある日の谷津干潟で、バスに乗って団体がやって来て中年女性が話しかけてきた。
「渡り鳥が海の上を飛んでる時に、卵を産みたくなったらどうするんでしょうか？」と。
またある小学校で「川を汚したのは誰？」のプログラムの後での質問。「この川には魚が何種類いて、全部で合計何万匹いるのか教えてください」。
そこから先の展開が肝心なのに、結論を聞くとそこで満足されてしまうから困る。

コロナ禍から何とか収まりかけて、閉じこめられていた年月が長かった。そろそろ自然回帰への道を探って、目を輝かせながら家族連れで緑が茂る山へ向かい、散策を楽しんでほしいのだが。
世の中すっかり便利になった。重い紙媒体の図鑑を広げたり、図書館へ足を運ばなくても、スマホで簡単に結論を教えてくれる。その出典がどこにあって、誰がその文章をまとめたのかなどと誰も気にしなくなった。

早咲きの桜で知られる河津町。川の土手に植えられたカワヅザクラは、おそらくもう 10,000 本を超えただろう。原木の発見は 1955 年頃に偶然見つけられたもので、オオシマザクラとカンヒザクラの自然雑種だろうといわれている。1 月末ごろから咲き始めて、花どきには大変な賑わいになる。だが、サクラが植えられる前には、このあたりにどんな草木が茂っていたのだろう。当然そこにたくさんの昆虫や野鳥の訪れがあっただろうに。

人混みを避けて外側に広がる田舎道を歩き始めて間もなく、キジが飛び出した。
辛うじて命をつないでいるものがいる姿に、ちょっとだけ胸を撫でおろした。

春のなだらかな丘全体に咲くブルーのネモフィラだってきれいだ。切れ込みの深い葉っぱが光と影になって、豊かな緑のグラデーションを見せてくれる。だが花の命はものすごく短い。花が終わってからの長い期間、それを支えて管理する人の苦労もあることだろう。もうすこしでも昔からあった自然の茂みを回廊として残せなかったものかと思ってしまう。地面の下には、無数の土壌生物たちの活動も気になるのだ。

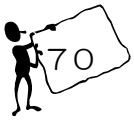
高度成長期はとっくに終わっているのに、人は今でもよりデカク、派手なのを期待し続けるのはどういう神経なのだろう。花は咲いていても、広がる風景は「沈黙の春」そのものではないのだろうか？
かつての里山には入会（いりあい）制度があって、持続可能な生産を維持するための厳しい掟があった。馬の背に載せて持ち帰れる分量以上の草を刈ってはいけないとか、鎌の大きさを制限すとかで、それに反したものには村八分の罪をかぶせられることになっていた。

西暦１世紀のこの地球の人口は、１億 7000 万人位と推定されている。今はざっと 80 億人だから、この 2000 年間に 50 倍近くに増加したことになる。地球の大きさは変わらない。人が増えれば森林が切られ耕作地を広げることになる。地球の外には宇宙があるさなどと気軽に考えてはいけない。月や火星にはどうやら水がないらしい。光合成で有機物を生産してくれる植物も育てられない。地球からすべてを運び込まなければならないのだから。

「世界がもし 100 人の村だったら」が出版されたのが 2001 年だったか。ここではすべての富のうちほんのわずかな人が・・・と説明していた。これを人数ではなくこの地球の生き物（動植物）と置き換えたらどうなるんだろう？　必要ない生き物なんていないはずですよね。
自然界はみんなつながりあって暮らしている。いままでの地質時代とは全く違ってヒトの影響が急カーブで大きくなっているのだからと、科学者たちは新生代第４紀の先を「人新世」にしようと提案している。

もう今までの常識は全く通用しない時代に突入しているんですね。今は子ども図書館にも、絶滅した動植物、異常気象、SDGs、生物多様性の本がぎっちりと並んでいる。
この国の将来計画を策定する人たちの経歴は、法科だったり経済学だったりと、自然科学には無縁だった方々ともども、額に皺を寄せないで目を輝かしましょう！子どもたちと一緒になって。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　70　―
おききしました！　この人・この団体



作業が楽しい、結果として環境保全に寄与
おとずれ山の会　事務局　髙橋和靖

そよ風と木漏れ日、竹林もある「ジャックの森」

市原市天羽田(あもうだ)地区にはコナラを主体とした１ヘクタール前後の市有林が数カ所散在します。おとずれ山の会ではそのうちの２カ所（「ジャックの森」と「アモーの森」）を整備しています。いずれも、姉崎袖ヶ浦インターチェンジの近く、JR 姉崎からは本数が少ないですが路線バスが運行されています。

ジャックの森は、なだらかな起伏の広葉樹の森ですが、数年前に台風の直撃で大きな被害を受けました。現在倒木の処理など修復を進めており、並行してコナラ苗の育成、ヤマユリの保全などを行っています。一角には孟宗竹林があり、整備による間伐竹で「ポーラス竹炭」や「熊手」などの竹製品をつくるなど、森林資源の活用を図っています。

アモーの森は、平坦な広葉樹の森ですが、進入路が狭いため人の訪れが少なく、市街に近い割には野生動物の活動が盛んです。アケビやフジなどの蔓性植物等を特徴とするワイルドな森として整備を進めています。

神秘の里「真里谷(まりやつ)」、修験の森「音信山(おとずれやま)」山塊

おとずれの森は、市原市と木更津市の境界に位置する音信山(おとずれやま)山塊の一角。平成 18 年 10 月、国有林の放出を受けて「おとずれ山の会」はここで発足しました。以来、篠竹を切り開き、杉や雑木の除・間伐を行い、林床整備を進めてきた結果、フユイチゴやウラシマソウ、キンランやエビネランなども見られるようになりました。

「いちはらアートミックス 2020」では、アーティスト深澤孝史氏により古道の発掘を含む一帯の探訪ルートが提案され、おとずれの森もその一部に位置づけられました。「音信」の故事に由来する修験僧の鳴らす鈴の音が響くような雰囲気を生かした森づくりを目指して活動しています。

好評の「熊手」、土壌改良剤「ポーラス竹炭」

整備で出てくる材料を利用した製品は、「里山からの贈りもの」として「いちはら大収穫祭」などに出展しています。地域の匠の指導を受けた「熊手」はさらに独自の工夫を重ねて好評をいただき、「ポーラス竹炭」は SDGs に沿うものとして理解され評価されてきています。

いちはら大収穫祭（R5 年 11 月 11～12 日）

作業を楽しむ、結果として環境保全に寄与

宇宙の神秘を畏れ自然に対して謙虚であれー

発足当時の当会会則前文の一部です。そして、自然との共生を考え、作業を楽しむホモルーデンスであれーと続きます。読み返すといささか面はゆいのですが、その理念はいまも変わることはなく、むしろますます重要性を増してきていることのように思われます。

作業の合間のひと休み(ジャックの森)

運営会議報告

１０月度運営会議

10 月 12 日（木）20:00～21:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 千葉興業銀行打ち合わせ　9/25
- 印旛沼環境基金事業実施　10/1
  「若者と考える印旛沼の未来」
- だより 153 号発送
- エコメッセ 2023in ちばオンライン出展
- セブンイレブン基金事業打ち合わせ
  10/5
- 若者が主役の環境活動応援事業　他

【協議】
- だより 154 号
- エコメッセ 2023in ちば
- 若者が主役の環境活動応援事業
- 地球環境基金事業
- 印旛沼環境基金事業
- ふなばしエコカレッジ　11/24
- ちば環境再生基金事業募集開始　他

１１月度運営会議

11 月９日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- エコメッセ 2023in ちば開催　10/14、15
- ふなばしエコカレッジ打ち合わせ　10/17
- セブンイレブン基金事業打ち合わせ　10/19
- 若者事業県との打ち合わせ　10/24
- 千葉興業銀行打ち合わせ 10/26
- コア拠点会議事務局会議　10/30
- いちはら市民大学環境コース打ち合わせ　11/9

【協議】
- だより 154 号
- 若者が主役の環境活動応援事業 現況報告
- 地球環境基金事業
- ちば環境再生基金応募について
- いちはら市民大学環境コース　11/21　12/5
- ふなばしエコカレッジ　11/24
- 公益財団法人古紙再生促進センター打ち合わせ
  11/13

他

お知らせ

環境教育関東ミーティング 2023 参加者募集
開催日：2024 年 2 月 10 日（土）12：30
～11 日（日）14：00
テーマ：「つなぐ・つながる・ひろがる
環境教育 in 千葉」
会場：千葉県立君津亀山青少年自然の家
対象：学生、個人、行政、企業、教育機関、
NPO など環境教育に興味、関心のある
すべての方
定員：80 名
募集締切り：2024 年 1 月 31 日（水）
下記よりお申込みをお願いします。
https://eekantomeeting2023.peatix.com/
主催：環境教育関東ミーティング実行委員会
協賛：公益社団法人 日本環境教育フォーラム

第 29 回安房地域母親大会
～教育って何？
今、私たちにできること～
開催日：12 月 17 日（日）
12：45～16：00
会場：富山岩井コミュニティセンター
入場料：1,000 円小中高校生は無料
内容：第１部：映画「夢見る小学校」上映会
第２部：「トークセッション」
西郷孝彦さん
（世田谷区立桜丘中学校元校長）
主催：第 29 回安房地域母親大会実行委員会
後援：館山市、南房総市、鴨川市、鋸南町、
各教育委員会

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。